

会 議 録

会議名	平成 25 年度第 3 回八王子市博物館協議会	
開催日時	平成 25 年 12 月 18 日（水）午後 6 時 30 分～8 時 00 分	
開催場所	八王子市郷土資料館集会室	
出席者	委員	大村のり子、小野一之、佐藤栄子、佐藤一、田野倉宏和、藤岡換太郎、本田怜子、吉田幸子（50 音順）
	事務局	牛山清志こども科学館長、田島巨樹郷土資料館長（文化財課長）、森融こども科学館専門幹兼主査、尾崎光二文化財担当主査、戸井晴夫郷土資料館担当主査、木住野直彦郷土資料館担当主査
欠席者	柿崎博孝、山中幸生	
議 題	協議事項 1. 大久保長安没後 400 周年記念事業事業評価について 2. その他	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 大久保長安没後 4 百年記念事業実施報告 ・ 大久保長安没後 400 年記念事業評価表 	

<p>会議の内容 (要旨)</p>	<p>大久保長安没後 400 周年記念事業事業評価について尾崎主査から説明。</p> <p>— 質疑応答 —</p> <p>小野会長 事務局からの説明が終わりました。</p> <p>まず、私の方から数値的な質問をさせていただいてよろしいでしょうか。評価として目標を概ね達成して町の活性化に貢献できて良かったということですが、その評価は、例えば、特別展展示図録の残・スタンプラリーの景品の残についての活用計画等を含めてのものなのでしょうか。</p> <p>尾崎主査 まず、展示図録についてですが、今までの特別展では、1年目で半分位が売れ、あと何年かで売り切れるパターンでした。しかし、今回の特別展の開催期間は、通常の 40～50 日間であったものが、今回は 30 日間と短かったという期間的な短さが原因で売上が少なかったと考えております。</p> <p>また、スタンプラリーの景品の残りについてですが、アンケートによると、ほとんどの方が良かったとの意見でしたが、中には回る距離が長かったとの意見もありました。この期間だけでは完走が難しく、結果として景品の配布数も少なくなってしまったのかなと考えております。残ったものについては、他の企画等で活用して行きたいと考えております。</p> <p>小野会長 本当は、もっと活用して欲しかったということですね。藤岡委員。</p> <p>藤岡委員 大久保長安没後 400 年記念事業への参加者数についてですが、特別展の人数が足されていませんが何故でしょうか。</p> <p>尾崎主査 特別展の入館者は、特別展開催期間中の郷土資料館への入館者数であり、必ずしも全てが特別展を主とした来館者とは限りませんので加算いたしませんでした。</p> <p>藤岡委員 特別展が「大久保長安と八王子」なので、特別展開催期間中の入館者数を加えても良いのではないのでしょうか。</p> <p>また、景品については、完走した場合に渡すというルールでしたが、1 か所でも行けばあげたら良かったですね。完走するのが大変でしたので。</p> <p>それから、スタンプラリーの参加者の内、30 代以下の割合が 25%だったとありましたが、これは子供でしょうか。</p> <p>尾崎主査 アンケート結果によりますと、回答数 440 中、10 代が 11%、20 代 4.3%、30 代が 9.1%となっております、家族で来た</p>
-----------------------	--

	<p>人が多いのではないかと思います。</p>
藤岡委員	<p>特別展展示図録があまり売れなかった理由は、大久保長安に関連した書籍がいろいろと出ているからなのではないでしょうか。</p>
小野会長	<p>大村委員。</p>
大村委員	<p>スタンプラリーに参加し景品をいただきました。8 か所を回れば景品が貰えるので、全部は回らないでいいかなと思い8 か所回って終わりました。ただ、お寺を回ってとても感じが良く、快く受け入れてくださりお客様をもてなしてくれているなど感じました。紅葉の時期でもあり、残りの4 か所を回りたいなという気持ちでした。</p>
尾崎主査	<p>アンケートの感想の中に、「今まではお寺には入りずらかったが、今回入ってみていろいろと歴史を感じる事ができ、これからはそういったところに行ってみよう。」という回答もありました。スタンプラリーを実施して良かったと感じております。</p>
藤岡委員	<p>最短距離で何キロ位ありますか。</p>
尾崎主査	<p>距離数は把握しておりませんが、時間にして4 時間程になります。</p>
小野会長	<p>大村委員。</p>
大村委員	<p>私は、歩いて回ってみました。一日では回れないので、何日かに分けて出来るだけ朝回りました。それも気分が良かった理由のひとつです。</p>
小野会長	<p>吉田委員。</p>
吉田委員	<p>私は、八王子駅から始まって西八王子まで歩きましたが、浅間神社・宗格院・極楽寺一日では無理でした。各場所で、八王子の人はまじめで一生懸命なんだと感じました。また、各場所には、いろいろな資料が置いてありました。産千代稲荷神社にはチラシ、中央図書館では関連展示本一覧というリストのほか‘松姫様’とか‘大久保長安と八王子の町’（八王子子どもレファレンスシート）の資料を置いてありました。</p> <p>他館ではこのような資料を置いている等、お互いを紹介し合っても良かったのではないかと感じました。そういう意味では、まだ伸び代があったのではないかと感じました。今回の事業を契機として、繋がりが見えてきた感じがします。これからは、各施設の情報交換が必要ではないかと思いました。</p>

	<p>なお、日野のスタンプラリーでは、スタンプ台の側に幟が立っていたので、目的地がはっきりし見つけやすく、ワクワク感も高まりました。</p> <p>それから、スタンプラリーマップは大変見やすかったと思います。</p>
小野会長	<p>吉田委員さんのおっしゃっていることは、景品以上のことが回ることによってあるということですが、実際、今回の景品は、景品自体の価値が小さいのか分かりませんが、回れば得るものが多いということだと思います。</p>
	<p>本田委員。</p>
本田委員	<p>4歳の甥とスタンプラリーに参加しました。小さい子も関心を高められました。それから、距離があったので私も3日間に分けて回りました。</p>
尾崎主査	<p>アンケートの回答にも範囲が広がったのでサイクリングがてらに回ったという意見も何件かありました。</p>
小野会長	<p>大村委員。</p>
大村委員	<p>新聞の折り込みに大久保長安のチラシがありました。</p>
小野会長	<p>スタンプラリーに限らず、講演会・特別展等他に意見があればお願いします。</p>
	<p>本田委員。</p>
本田委員	<p>文化財見て歩き「大久保長安と八王子宿」について、募集人数を上回る応募があったのは、関心が高かったと思われま</p> <p>す。この事業は、2回実施した方が良かったのでは。</p>
尾崎主査	<p>保険料の支払いが間に合わない等の理由で2回実施できませんでした。</p>
小野会長	<p>田野倉副会長。</p>
田野倉副会長	<p>大久保長安について、日本史の先生に八王子にはこんな人がいると話しました。その方は、佐渡金山・石見銀山・伊豆の金山などをみてまわったことがあるが、これらの鉱山の開発に関係していた人が大久保長安で八王子にいたことを知り大変びっくりしていました。</p>
小野会長	<p>他に如何でしょうか。</p>
	<p>佐藤栄子委員。</p>
佐藤栄委員	<p>これまで、各委員さんの意見をお伺いして、細部にわたり目を向けられていてすばらしく感じました。普段から八王子に関心を持っていないとできないことだと感じました。こち</p>

	<p>らが気付かされたこともありました。</p> <p>先程、商店街との連携した取り組みが出来なかったため、まちの活性化や賑わいに関する効果を確認できなかったと評価にありましたが、私も他の地域でやっていて大変なことと感じておりますが、地域全体はできないが、今回はこの地域とか部分に分けて参加できる体制がとれば良かったのではないかと思います。</p> <p>尾崎主査 実際には、トイレや休憩場所だけでも貸していただけないかなどと協力を依頼し粘りましたが、最終的に詰め切れませんでした。</p> <p>小野会長 田島館長。</p> <p>田島館長 今回、広い意味で言いますと、先程話題にあがりましたチラシは、大久保長安の陣屋があったとされる産千代稻荷神社近辺の八日町・八幡町の商店街の方が、大久保長安の地元ということでチラシを作られたようです。この内容については、郷土資料館で協力させていただいておりますし、大久保長安をアピールしながら、商店街の活性化に向けての活動に対する協力というか連携ができたのではないかと考えております。それから、大久保長安の企画に関しては、様々なことが初めての事でうまくできなかった部分もあったことが反省点として挙げられます。先程、吉田委員さんからお話いただいた中央図書館やこども科学館との連携ですとかあるいは、大久保長安の会という市民団体との連携も行ったということで、今後市民の方々、行政やそれを取り巻く研究者の方々と一緒に事業を展開するには良い勉強になったのではないかと考えております。</p> <p>小野会長 では、私の意見を述べさせていただきます。自己評価もいろいろですし、委員さんの評価もまずまずということなので、こういう時はちょっとバランスを取る感じで厳しい意見を言わなくてはならないのではないかと思います発言させていただきます。</p> <p>まず、順を追って申し上げますと、特別展「大久保長安と八王子」についてですが、入館者数が増えプラスになったのでしょうか、展示の中身としては、まだまだ課題があるのではないかと思います。分かり易さ等まだまだではないかと思われました。展示の説明が長いし、一般の人、特に子供が</p>
--	---

見て分かるような内容ではありませんでした。構成にしても一般的な大久保長安の評価をし、後から取って付けたように「大久保長安と八王子」という項目と付けていましたが、もうちょっと、八王子で実施する長安展なのでその視点を工夫できないのかなと感じました。八王子に長安がどう受け入れられて、今までどのような評価を得てきたのかということをもっと打ち出した方が良かったのではないのかと思いました。そういった時には、日本史の中の‘おおくぼながやす’という視点と‘ちょうあんさん’という視点、大久保長安の会の会長さんが「我々の世代だったら、‘ちょうあんさん’と呼んでいた。」とどこかに書いてあったかと思いますが、日本史の中の‘ながやす’と八王子にとっての‘ちょうあんさん’、奇しくも前回のこの会議の中で、‘ながやす’ではなくて‘ちょうあんさん’と呼びたくなるような雰囲気があったように、八王子から見た‘ちょうあんさん’をこの事業の中で打ち出すことができたのではないかと思います。

それから、展示図録につきましては、残念ながらあまり売れなかったということですが、この図録は、今回だけではなくこれから長いスパンで売れる資料となると思いますので、良いのではないかなと思います。ただ、先程、藤岡委員さんが示された市販の3冊の書籍の中では、ブックレットが読み易く面白いですよね。今回の印刷物は、棲み分けができたという言い方もできるのではないかと思います。

次に、スタンプラリーについてですが、11月30日に回りました。午後1時に西八王子駅を降りて、図書館をスタートして大体4時半までかかりました。そのうち30分はこども科学館で過ごさせていただきましたので約3時間で回れたと思います。多分、普段行かないだろうなというお寺も行け、また、それぞれの場所では、分かり易い場所にスタンプがあったほか、印刷物があり非常に勉強になりました。土曜日の一番良い日取りでしたが、どこに行ってもスタンプラリーに参加されている人には会いませんでした。最後、八王子駅南口で景品をいただきましたが、私としては、良い時間を過ごさせていただいています。

大久保長安は、街づくりの元祖でもあったので、これから将来にわたる八王子の都市設計というか活性化に向けて、非常に

良い材料になると思います。そういった意味から言いますと、郷土資料館なり文化財行政が八王子の行政一般というか全般に渡って存在意義を示せる良い材料であるし、これからも将来に渡ってこのテーマを追いつけていただきたいと思います。

尾崎主査。

尾崎主査 今回、市民のグループからの活動の方が先に出ていたようなかたちとなりまして、地域博物館としての取組みとは若干違うものがありました。通常であれば、何年間か学芸員が調査・研究をしたなかで、その成果を基に特別展等を開催するところでしたが、今回は、その準備期間が無いのに八王子に大久保長安に関連する資料が少ない中での開催となりました。

それから、先程会長がおっしゃっていた棲み分けについてですが、市民団体のグループは、どちらかというと伝承を中心とし、郷土資料館は、資料を中心に行って参りました。そうしますと、全国的にみても大久保長安に関連する資料が限られており、どこで展示を行っても同じような展示となってしまうところがあります。今回は、その中でも代表的な木像等を見ていただこうと、費用をかけ展示を行ったところです。会長が言われたとおり、八王子との関わりについて引き続き掘り起こして行くことが必要ではないかと考えています。今回の企画は、大久保長安の研究のスタートであると考えております。

小野会長 佐藤栄子委員。

佐藤栄委員 確かに資料として正確に事業の軌跡とかを検証して行くことは非常に大事なことです。一般の人々が物凄く興味を示すのはやはり伝承的なもの・人間性的なものが受けます。そこから入って行くと広がり易いのではないのでしょうか。両方大事なことですよね。

尾崎主査 一般の人の受けは良いのは伝承ですが、本当はそれが資料に基づいたものになれば一番良いことであると思います。伝承であるものについて、如何に掘り起こして行けるか、今後も引き続き行って参りたいと思います。

小野会長 その仕事は、郷土資料館の仕事で今回きっちりやっていただいたと思います。そのまとめが今回の活動だったと思いま

す。尾崎主査がおっしゃっていただいた、市民先行について、今回の評価としてはプラスだったと思います。やはり、評価して行くうえでいろいろな視点のうちに市民参加性だとか市民協働性だとかニーズに応えることが重要なポイントになると思いますので、これまでの郷土資料館の事業と比べても格段に良かったのかなと思います。

では、大久保長安没後 400 周年記念事業事業評価について以上でよろしいでしょうか。

続きまして、その他事項について。

森専門幹兼主査。

森専門幹兼主査 こども科学館から、アイソン彗星関連講座について報告させていただきます。

アイソン彗星は、11 月 29 日の朝、太陽に一番接近したところでほとんどが蒸発してしまいました。そのような中で、当館で行った事業について報告させていただきます。

まず、学習会を 4 日行いまして、101 名ご参加いただきました。

あと、もし明るくなったら夕方にも見えるかもしれないという予想をしまして、11 月 30 日・12 月 1 日・12 月 3 日夕方から‘見る会’を設定しました。しかし、見えなかったので‘昼間の金星を見る会’に切り替えました。天体望遠鏡に金星を入れまして、月のように欠けている金星を見ていただきました。参加者は 247 名でした。

また、12 月 8 日の天文講座でアイソン彗星はどうなったのかという話をしました。参加者は 32 名でした。

プラネタリウムの番組で平日 1 回、土日 1 回、10 月 19 日からアイソン彗星についての説明する番組を行いまして、やはり見えなくなりましたので、解説もその後どうなったのかという解説も入れて投影いたしました。本当は今月いっぱい行う予定でしたが、来年から行う予定でありました‘ディープワンダー宇宙と深海のはるかな旅’を前倒しで 12 月 7 日から投影をいたしました。

国立天文台でもアイソン彗星については、人知を超えていると言っておりましたが、まさかこのようになるとは思いませんでした。明るくなれば、学習会等にもっと多くのお客さんが来られたのかもしれませんが、ほとんどの方が見られな

いま消えてしまいました。

また、話は変わりますが、12月14日に藤岡委員さんの講演会を開催いたしました。4回連続講演会の第1回だったのですが、50人弱の方においでいただきました。小学生から年配の方まで質問もいろいろ出まして盛り上がりました。2月8日から2回目が始まりますので、是非おいでいただきたいと思います。

小野会長 アイソン彗星には振り回されましたが、こども科学館は、迅速に事業の対応をしたと思います。この柔軟な対応は、評価しても良いのではないかと思います。来年は月食があるようですね。調査・研究よろしく願いいたします。

他に何かありますか。

佐藤一委員。

佐藤一委員 郷土資料館とこども科学館は独自のホームページは持っていないのですか。持っていないとすると、何か理由があるのでしょうか。

牛山館長 ホームページは、市のホームページの中にぶら下がっています。独自に持っていない理由としては、コストがかからない面があると思います

佐藤一委員 独自に作ってもコストはあまりかからないと思います。

郷土資料館で発行している‘郷土資料館だより’ありますよね。この配布先等は、どうなっているのでしょうか。

小野会長 戸井主査。

戸井主査 ‘郷土資料館だより’の発行の周知は、広報及びホームページで行っております。

配布先につきましては、定期購読者がおまして、郵送料を購読者に負担していただきお送りさせていただいております。

佐藤一委員 前に伺った際には、‘郷土資料館だより’をPDFで配布していない話を聞きました。‘郷土資料館だより’は、貴重な資料ですよね。これをそのまま寝かしておくのはもったいないことです。何故、PDFで提供しないのか。つまり、歴史研究家だとかいろいろな人がいる訳ですから、そういう人達がダウンロードしていつでも研究できるような体制を整えておくことも大事なことだと思います。‘郷土資料館だより’をPDF化し、ホームページから誰でもダウンロードできるよう

にすると、例えば、今まで郷土資料館にあまり興味の無かった人達が、たまたまそれを見た時に「こんなことをやっているのか。こんな資料があるのか。じゃあ行ってみよう。」となります。これは、こども科学館にもいえることです。大変素晴らしいことを行っているのに、ホームページ等で紹介されないのはもったいない。今は、情報はホームページで提供していくという視点を持たないとどうにもならないと思います。そういう意味でも、できるだけ市の財産を共有できるようにホームページサイトにあげていただきたいと思います。

小野会長 戸井主査。

戸井主査 実は、郷土資料館では、市役所でまだワープロが入っていない頃からコンピューターを導入し、資料を整理したり、一番早く独自にホームページを作成しておりました。しかし、市のホームページ作成が始まりますと、郷土資料館で作成していたホームページが認められなくなりました。独自で作成していた時は、催しですとか発行物ですとかタイムリーに情報を更新しておりましたが、市でホームページ開始と共に、それに取り込まれてしましまして、容量も決められてしまうほか、更新するのも手間がかかってしまうようになってしまいました。

佐藤一委員 郷土資料館やこども科学館はその性格上、情報を随時出しておかなくてはなりません。だから独自にホームページを持つということが必要ではと思ひ話をさせていただいたところでは。

戸井主査 特別展やコーナー展の開催などの催し物や発行物のお知らせは比較的まめに更新しているとは思ひます。ただ、中身に関して詳しくとなると容量の制限がありますので、どうしても難しくなります。

佐藤一委員 問題は視点だと思います。容量の制限があるので重要な情報は出さないのではなく、重要な情報があるのであれば容量を増やす等して行く必要があるのではないのでしょうか。

戸井主査 市として掲載できる容量が決められているので、一所管で容量を増やすことができません。よって、出す情報が限られてしまう状況となっております。郷土資料館やこども科学館等独自のホームページがあった方が良いですが、現状では不可能な状態となっております。

佐藤一委員 今すぐどうこうというのではなく、是非そんな方向で考えていただきたいと思います。

戸井主査 郷土資料館が独自でホームページを作っていた時から市役所の中に入っていった際に「見にくくなった。」とか「つまらなくなった。」等ずいぶん批判を受けました。

佐藤一委員 東京都のサイトを見ても、東京都写真美術館にしても江戸東京博物館にしても独自のサイトを持っています。タイムリーに情報が提供できれば良いと思います。

小野会長 独自のホームページの件は、4・5年前のこの会議で話題になりまして、今のような説明をいただきました。あれから時代も変わってきていますので、新たな方向に行けたらと思います。ネーミングライツの会社もあるわけですから、そことの連携もあるでしょうし、もっと言えば、独自の広報ですとか先程スタンプラリーで話題に出た飲食関係との連携ですとか柔軟な運営体制をとるには、ひとつには直営から指定管理としてやって行くのも選択肢としてあります。しかし、弊害が共にあるわけですから、最終的には市民の選択、それに依る行政の展開とういことになり、これから課題に挙がってくると思います。これについては、引き続き話題にして行きたいと思います。

他にその他事項はありますでしょうか。

無いようですので、平成25年度第3回八王子市博物館協議会を終了させていただきます。有難うございました。